

きほく通信

第65号

2017年
9月20日
発行

難病
患者家族会

きほく

地藏盆の旅立ち

事務局 森田良恒

前号に引き続き私の個人的なことを記事にすることをお許し下さい。

8月16日退院した妻敏子は次の日から普通常食をむせることなく食べ、薬のコントロールもうまくいき、21日(月)のデイサービスも22日(火)のりハビリも普通にこなせるようになっていました。

家に帰れたことの喜びが薬になったのでしよう。23日(水)には紀北病院に薬処方のために敏子も連れて行くと、先生から「元気になってよかったね」と言われ、満面の笑顔で答えていました。

診察室を出るとりハビリでお世話になった先生と出会い、両手を振って「ありがとうございます」と言ってお別れしました。

薬局での薬の処方には3時間ほどかかるため敏子に「何か食べに行く？」と言うと、「中華料理」と答えるので好みのお店に行きました。

椅子席は満席だったので、敏子は座敷には座れないため店を出ようとする若し男性客4人が席を譲ってくるというのでお礼を言ってお椅子席に座らせていただきました。

敏子は好みのものを食べ、奥菌2本を抜いた私の分まで食べてくれました。

帰り道、車の中で「一緒に病院に来られたこと、席を譲ってくれたやさしい人たちに会えたこと、お店で美味しいものを食べられたこと、もちろん自分の口で、そして二人で自分の家に帰れること、こんな幸せはないなあ、ありがたいなあ、感謝しようよ」

と話し、普通であること、あたりまえであること、幸せを感じながら、家に帰りました。

翌24日(木) デイサービスの日にその日はやってきました。

朝からいそいそと洋服を着替え、唇の色が分からなくなるから口紅をつけないように言っても聞かず、すっかり化粧をして大好きな職員に迎えられ出かけました。

一般浴にも入ることができ、いろいろな行事や軽い運動を楽しくやり過ごせたことで喜んで帰ってきました。大好きな職員に送られ「また来週ね」と笑顔で手を振りながら・・・。

帰ってきた午後4時は薬の時間になります。薬を飲んだあと訪問看護を受けるのですが、そのときに突然心停止の状態に陥りました。

前回と同じ看護師から「心臓マッサージをしますか？」と聞かれたのですが、私は「もう結構です」と答えました。

それは、もし心臓マッサージを施して2ヶ月前のように蘇生したとしても、また救急車で病院に運ばれ点滴、絶食、長期入院という状況を敏子に与えることは私には耐えがたいことだったので。

むしろ退院してからの8日間の穏やかな幸せの記憶のまま、しずかに逝かせたかったです。

私は敏子の手をにぎり顔を見つめながら、心の中には「これでいいのか?」「マッサージした方がいいのか?」という葛藤が芽生えていたのも事実です。私は「敏子、許してくれよ」、「これでよかったんか?」と心の中で叫びました。

敏子の最期は穏やかな顔をしていました。私を許してくれているように・・・

お知らせ

■県と患者会との話し合い

日時：10月4日(水)午後1時30分～3時
場所：県庁北別館

■総合的難病対策の推進の国会請願署名活動

日時：10月14日(土)午後3時～4時
場所：JR和歌山駅前(西口)

ご報告

■平成29年9月11日、和歌山県議会議員 尾崎太郎様宛てに、難病法における軽症患者登録者制度の実現及び経過措置の延期などの意見書提出を求めた県議会請願を提出しました。

この日は8月24日地藏盆です。きつと自ら発願建立したおたすけ地藏尊の懐に抱かれているのでしょうか。

通夜、葬儀にはお忙しいなかたくさんの方が参列してくれました。

なかには私と結婚後、敏子が自らパーキンソン病に罹る以前からボランティアとして関わった同病の仲間はもちろんのこと、難病患者会の患者さんたちもたくさんわざわざ参列し送ってくれました。

皆さまのご厚情あふれるご会葬のお力をいただき、それをご利益として敏子は天国に旅立ちました。

生前中の「厚誼に感謝申し上げます。

合掌

【会長】神森和子

紀の川市中三谷

【相談室】0736(75)4413

【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371

森田方 TEL0736(75)4413